

しのめ

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail: sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

目次

「センター評議員会 開催」	p.1
「今年度の研修講座の様子」	p.2
「『年末年始休みの課題帳』ご活用ください！」	p.3

センター評議員会 開催

出席評議員（敬称略）

桂本 和弘	長野県小学校長会 会長 （座長）
篠原 謙治	長野県中学校長会 会長
鳥谷越 浩子	長野県高等学校長会 副会長
井坪 秀明	長野県国公立幼稚園長会 会長
青柳 信雄	塩尻市中央公民館 館長
天野 良彦	信州大学工学部物質化学工学科教授
滝沢 克子	信濃教育会教育研究所 部長
堀江 三定	長野県産業教育振興会 会長
伊藤 かおる	株式会社コミュニケーションズ・AI代表取締役社長
西川 友人	松本大学教育学部教職支援室 専門員



9月9日（月）、参集とオンラインのハイブリッド方式で評議員会を開催しました。

〔 評議員会でいただいたご意見（抜粋） 〕

- ◆現在通信制の生徒数が史上最大になり、教育の在り方、教育のやり方が変わってきていると思う。先生方の研修の中に次世代の教育法に関わる内容を取り入れることをお願いしたい。
- ◆生涯学習推進センターとの連携講座は、教科の講座とは違った視点で学校を見ることができ、視野も広がると感じる。この連携をさらに充実していただきたい。
- ◆対面で学ぶ楽しさや教える楽しさを味わえるような、そんな講座を今後も考えていただきたい。
- ◆調査官と学ぶという講座が各教科にあり、オンラインで午前中だけといった工夫もある。最先端の話を聞くことができ、刺激的、魅力的なため、参加者が増えるよう、さらにアピールしていただきたい。
- ◆学んでいる内容が実際の社会でどう使われているかが見えるような授業につながる研修の工夫をしていただきたい。

様々なお立場から貴重なご意見をいただきました。今後の事業運営、研修づくりに反映させてまいります。

※今年度の評議員会の要旨はセンターのホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

総合的な探究の時間の授業づくり ～「探究したい!と思える授業づくり」～

講座のねらい

- ・総合的な探究の時間の目標を再確認し、事例紹介や演習を通して、指導の充実を図るための手立てについて理解する。
- ・各学校のカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、今後の総合的な探究の時間の指導の工夫や改善の方向を見いだす。

なぜ、今、探究なのか、「総合的な学習の時間」との違いはどんなところなのか、講義を通して考えました。

総合的な探究の時間における教師の役割、生徒への声かけ等、事例を交えながら理解を深めました。



演習では、総合的な探究の時間における「問い」を設定する場面で、ファシリテーターとして教師がどのような声かけをしていくか考えました。

受講者の「好き」な事柄から、探究としての「問い」づくりを行いました。生徒役の受講者の「本が好き」から質問を重ね、街の本屋さんの優位性や読みやすいフォント、表現など探究としての「問い」の候補がいくつもつくられていました。教師役の受講者も、答えが分からない課題に対し、一緒に悩みながら「問い」をつくる姿が見られました。

教科や経験年数も異なる構成のグループでも、教師役の受講者が対話しながらファシリテートする姿から、指導の工夫や改善の方向を見いだしていました。

演習 (グループワーク)

受講者の感想

今まで探究的な活動を通じて、どのような体験をしてほしいか、どのような技術を身に付けてほしいか、ということだけ考えていました。「問い」を生み出し、どう探究していくかという過程に関心を持っていなかったことに気がきました。

はっとさせられたのは、「先生も生徒も知らないことがあってよい」ということ。どこか、先生は生徒より多くのことを知らない、という固定観念に縛られていた。生徒の「好き」を上手にファシリテートして「問い」を引き出したい。

関係づくり基本Ⅱ

～ カウンセリングを学んで教師力アップ! ～ 10月1日(火)実施

明治大学文学部の諸富祥彦教授による本講座は、今年も県内から140名超の方が集まりました。

講座開始からハイタッチ、手をつなぐ、ダンスなど、初対面から驚くほどの早さで体の距離も心の距離も縮まり、和やかな雰囲気になりました。

その後、「教師は人間関係のプロであれ!」をテーマに、心と心のふれあい、気持ちと気持ちのあたたかなつながり(リレーション)をつくる演習、シェアリングを繰り返しました。また、安心感を与える教師であるために、忙しそうにしない、いつも穏やかでいる、支え合う職員室をつくる等が大切なことを学びました。

リレーションこそ、あらゆるカウンセリングのベースであると1日をとおして実感しました。最後に、受講者同士が、この学びを生かし教師力アップが「できるよね!」と笑顔とグッドサインで伝え合いました。受講者からは「子どもや保護者、先生方との関係づくりに生かしたい」という感想が多く寄せられました。



◆◆受講者ふりかえりから◆◆

- ・心と心の温かなふれあいをしていきたい。ふれあいを提供することが教師の仕事。愛情を提供するのが教師。
- ・そばにいてだけで安心できる、ホッとできる教員でありたい。
- ・いつでも相談できるような先生たちとの関係づくりも大切だと思いました。
- ・チームとして支援していくことの大切さを学んだ。そのためには様々な立場の人とリレーションを作りたいと思った。

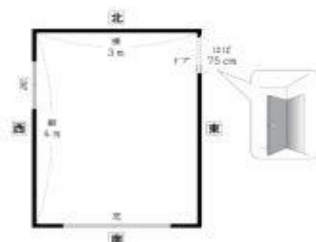


「年末年始休みの課題帳」 ご活用ください！

多くの先生方に、国語、算数・数学、理科の「休みの課題帳」をご利用いただいています。身近な生活場面を題材にして、児童生徒が思考し、判断して、自分の考えなどを表現できるような問題を用意しています。

今回は、年末年始休みの課題帳から、小学校4年生の算数の課題の一部を紹介します。ぜひ、ご活用ください。

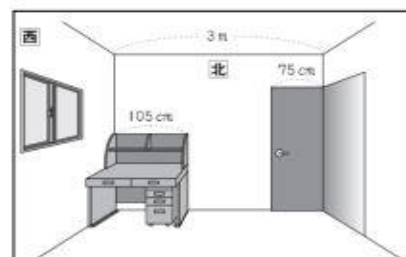
- 1 下の図のような、縦が4 m、横が3 mの長方形の部屋があります。部屋の東側には、ドアがあります。このドアは、はばが75 cmで、部屋の内側に開きます。たか子さんは、この部屋の中に、いろいろな物を置こうと考えています。



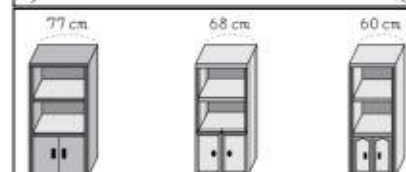
- (1) ドアを開け閉めするときに、置いた物にドアが当たってしまう場所と、当たらない場所を調べて図に表します。ドアが当たってしまう場所を ☐ で、当たらない場所を ☐ 表すとき、それぞれの場所を正しく表している図を、下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



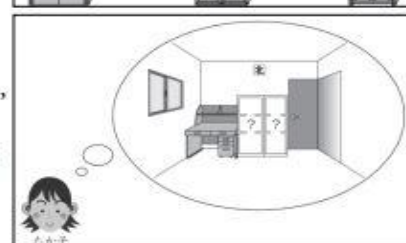
- (2) たか子さんは右の図のように、北側と西側のかべにつくように机を置きました。たか子さんの家には、右下の図のような、はばが異なる戸だなが全部で3つあります。



たか子さんは、3つの戸だなの中から2つを選び、下の図のように、**ドアが当たらない場所**に置きたいと考えています。2つの戸だなは、後ろ側を北側のかべにつけて、机の横に並べて置きます。



すると、たか子さんのお姉さんは、「3つの戸だなの中から、どれとどれを選んで置いても、ドアを開け閉めすると、戸だなに当たってしまうね」と言いました。お姉さんの言ったことが正しいわけを、式と言葉を使って書きましょう。



(わけ)



長野県総合教育センターHP トップページから

教育情報 → 「学びの広場」 → 休みの課題帳